

☆インフォメーション☆



リクエスト本 大量入荷!

委員会活動で取り組んだ文化祭古本市の売上金で購入。
図書委員会からの寄贈本です!

コミック 『ハイキュー!!』 ©古舘 春一
/集英社ジャンプコミックス (1~32巻まで)

新規ラノベ 『しにがみのバラッド』
『神様のメモ帳』

既存シリーズの続巻 『GOSICK』『はたらく魔王さま!』『断章のグリム』『魔法科高校の劣等生』

その他 『アリバイ崩し承ります』 大山 誠一郎、
『ライオンハート』 恩田 陸、『家庭教室』 伊東 歌
詞太郎、『室町繚乱』 阿部 咲子、『塀の中の美容室』
桜井 美奈、『任侠学園』 今野 敏、『小銭をかぞえる』
西村 賢太

ほか、全95冊!!

英語多読キャンペーン☆

【期間:~11/30】

多読リーディングマラソン 4219語を読み切ろう!

* 24頁×5冊程度でも達成可能 (読書量 約40分)

はじめるなら、今がチャンス!

☆完走者特典! ☆ 抽選で10名に進呈



輸入菓子
(ポーランド)
BA!
エナジー・バー
40g



芸術の秋 音楽にフォーカス!



セカオワはこうして生まれた! 「ふたご」 藤崎 彩織/文藝春秋

著者はバンド「sekai no owari」のピアニスト。ボーカル Fukaseとピアノの Saoriの中学時代からの交流から、デビューまでを物語る。同じ世界観で言葉が通じる同士。だが、恋焦がれる女心に葛藤があったことも正直に。音楽を支えることで、彼らの世界の一部になり、そして彼らの夢が自分の夢になるまでが、著者の文才によって再現された。不登校や留学中にパニックになる不安定な時期の二人の関係は危うく、世界の終わりを感じた時代だっただろう。今の活躍がまぶしく見える!

♪人情×クラシック♪ 奏でる音が温かい♪ 「ドラフィル! : 竜ヶ崎商店街オーケストラの英雄」



美奈川 護/KADOKAWA
優秀なバイオリニストなのに就職できなかった響介は、叔父に頼まれ、アマチュアオケのコンサートマスターとして着任した。メンバーは商店の住人で個性派揃い、お互いの人柄も生活も熟知した仲だからこそその雰囲気。オケで指揮を振るのは車いすの非常勤職員、七瀬。半端なく男勝りな彼女に圧倒されながら、彼ら抱える日常の葛藤や心のズレさえも束ねて彼らの音に変えていく。登場する曲をYouTubeで聴いてみて。

貸出まだ2回。この本いい! 口コミで広めたい! 「よろこびの歌」 宮下 奈都/実業之日本社



私立高校に入学した女の子たち。コンプレックスや葛藤や嫉妬など、小さな葛藤と日々折り合いをつけて、折れたり曲がったりしながら生きている。不本意入学だった子、中学部活で肩を壊し希望を失った子、親の職業がコンプレックスな子など、7人の生徒の心象風景を通して、グルグル・もやもやした心が、ある日さくっと晴れたりする瞬間を描く。誰も

経験したことある心の痛みや癒しを思い出し、曲がった先は真っ直ぐ、そして明るいよ!とエールを贈りたくなる。読後感の良い本です。(以上 千葉)

まるでコンクール会場にいるかのよう!

「いつまでもショパン」 中山 七里/宝島社文庫



舞台はショパン国際コンクールが開催される、ポーランド・ワルシャワ。コンクール会場での殺人事件の謎を解くミステリーなのですが、音楽描写が見事すぎて曲解説を聞いているかのような不思議な気分になってしまいます。ショパンコンクールの進行方法、課題曲の選曲、ポーランドの民衆の気持ち等とても興味深く、音楽通になった気分も楽しめます。ただ、ピアノは全く弾けないという著者がなぜここまで表現できるのか、謎は深まるばかりです。

違った意味でオーケストラが楽しめます★



「オーケストラ楽器別人間学 決定版」 茂木 大輔/中公文庫

「楽器と性格の関係を、N響首席オーボエ奏者の著者がプロファイリングする音楽書」とかけばとてもまじめな評論のようですが、表紙をみてもわかるように「これは偏見!でもこちらはちょっと当たってる!」とニヤニヤしながら楽しめる本です。ご安心を。演奏をする人はあなたの周りを思い浮かべながら読んでみて下さい。私は「有名人による架空オーケストラ」の章を思い浮かべてオーケストラを楽しみます。



こんな職業があったなんて! 「音楽療法士になろう!」

加藤 博之・藤江 美香/青弓社

小学校教師であった著者が、音楽療法と出会い療法士となるまでのプロセス、療法士に求められること、資格、そしてこの職業をとりまく実際の環境がまとめられた一冊。百人のセラピストがいれば百通りの音楽療法があるが、目的は「対象者が幸せな人生をおくるための支援」を音楽を使っておこなうこと。難しい定義はおいといて、それだけは理解できたように思う。(以上 梅谷)

音楽は寄り添い続けてくれる...



「ミュージック・ブレス・ユー!!!」

津村 記久子/角川書店

人と話している時、授業中、アルバイト以外のほとんどの時間、ヘッドフォンを装着し音楽を聞いている高3生のアザミ。周囲は進学の話一色だが、音楽を聞く以外に明確な行動ができないでいた。大金を使って一体何を勉強しに行くのか、とってしまうのだ。音楽に溺れることで現実逃避していたのかも知れないが、その時間は決して無駄だったのではない。明日からのアザミを形成していたのだと思わせてくれるラストだった。数年後大人になってから読み返して欲しい作品だ。

オーケストラの運営は生半可じゃできません!

「女神のタクト」 塩田 武士/講談社

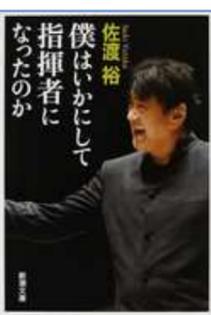


仕事も彼氏も手放して傷心旅行中だった明菜30歳。ひよんなことから瀕死のオーケストラの再建に関わる羽目に。口も手も足も出ちゃう明菜自身も濃いキャラだが、楽団メンバー他登場人物達もクセが強い!そんなメンバーで楽団再建を懸けた演奏会は成功するのか!? 作品のテーマ曲とも言える『ラフマニノフのピアノ協奏曲第3番』が流れているように錯覚する。演奏会の結果も明菜のこれからも気になり一気読み!

クラシックコンサートに行ってみたくありません☆

「僕はいかにして指揮者になったのか」

佐渡 裕/新潮文庫



世界で活躍中の指揮者、佐渡氏がこの本で繰り返し書いているのが「演奏会ほど面白いものはない!いっぺん演奏会にさいひんか?」曲の成り立ちや作曲家についての知識、演奏後の拍手の仕方等々、色々敷居が高かったクラシックコンサートだが、この本を読んでずいぶん気が楽になった。むしろ行きたくなくなった!自分の大好きな音楽を沢山の人の届けたい!という佐渡氏のピュアな思いがすごく伝わる本。(以上 田中)

